

1. 教育目標・教育方針

【教育目標】

1. 健康 じょうぶなからだ
2. 豊かな情操 やさしいところ
3. 思考と判断 かんがえてすすむ

【教育方針】

1. 遊びを大切にしながら年齢に合った体験を豊富にすることによって、子どもらしさ（生き生きとした・失敗を恐れない・意欲的な）と年齢にふさわしい自律・自立心を身につけること。
2. 保育者達の大きな愛情に包まれて集団生活を送ることにより、人との関わり方の基本を学ぶこと。
3. 一人一人の子どもの発達に応じたきめ細かい対応をし、その子の長所を伸ばす教育を。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・コロナ禍でも子どもたちが安全に、元気に楽しい園生活を送れるよう、日々の保育・行事を工夫して実施する。
- ・インターネットの活用をさらに進め、教職員の負担軽減と保護者の利便性の向上に努める。
- ・令和3年度から新たに満3歳児クラスを開設。他クラスとも協力して保育を進める。
- ・保育中の事故防止・事故対応や緊急対応などを含め、教職員の情報の共有や園内研修などを進め、保育の「質の向上」をより充実させたい。また、教職員の業務負担軽減を更に図る取組みも引き続き進めていく。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

〈評価は3段階評価・令和4年1月職員アンケート結果より〉

評価項目	評価	取組み状況
教育方針・目標	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のニーズや運営環境の変化に対応できるよう情報収集につとめている。今年度は満3歳児クラスを開始した。 ・保育教育目標や方針は、教職員には園長自ら会議で話して共通認識をはかっている。教職員数が多く全員が集まれる機会が少ないので、全員が共有できるよう工夫する必要がある。 ・新入園児保護者には園の見学会や入園説明会などで丁寧に説明。在園児保護者には年度初めに話をしている。外部向けにはホームページに掲載。
教育課程・指導計画の編成	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が子どもの実態を把握しそれぞれの状況にあわせてカリキュラムを作成、カリキュラム会議で当月の狙いや個別対応の情報交換も行っている。 ・様々な体験活動や専科授業を行っているが、今年度は体育、音楽、絵画に加え、新たに英語の専科授業を開始した。 ・幼保連携こども園として、幼稚園と保育園の認識の共有が更に進むように工夫したい。 ・計画策定は主任・副主任が主に行っており、今後さらに他職員からの意見を反映できるようにしたい。
人材の育成・確保 働きやすい環境	C	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の業務に加え、コロナ対策や行事の変更で業務量が増加し、非常に忙しい状況が続いている。これまでもIT化など効率化を進めているが、更に業務内容の見直しや効率化なども推し進めながら、引き続き必要な人材の確保にも努める。 ・教職員数が多くシフト制をとっているため、全員での園内研修が難しく、新たな方法を検討したい。若い先生も多いので、引き続き園内でのサポート体制を確立し、働きやすい環境づくり、能力向上に努めたい。 ・外部の研修にも積極的に参加しスキルアップをはかり、研修で得た知識の共有をはかっている。
教育・保育の内容と方法	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもを教職員全員が大切にしており、子どもの状況にあわせた保育を行うことを日々心掛けている。 ・援助が必要な子どもには補助教諭がついて、安心して成長していける環境を整備している。 ・コロナ禍に対応した日々の保育を実践。行事は一部キャンセルせざるをえなかったが、できるだけ実施する方向で実施方法を工夫、状況が変わった際には臨機応変に対応した。 ・新設の満3歳児クラスは、今年度は模索しながらの実施となった。引き続き保育内容や方法を検討する。
施設・環境整備	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、新館の床のはりかえ、記念館エントランス廻りの雨水改修などを行った。今後もニーズにあわせ必要な施設、設備を整えていく。

安全・衛生 関連の取組	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの情報を毎日共有し、安全点検等を定期的にも実施している。 ・産業医を含む安全衛生委員会を月1回開催、課題の洗い出しや解決をはかっている。 ・援助が必要な子には補助教諭をつけて、安全に安心して過ごせるようにしているが、常に十分な体制をとれるようにしたい。 ・コロナ禍の感染対策は全員で共有し徹底している。感染者等発生時の対応については専門のチームで、自治体の指示にそって対応。保護者からの問い合わせにも丁寧に対応した。
情報の発信 と受信	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で保護者に現場を見ていただく機会が減り、保護者に電話で様子を伝える機会をふやすようにした。また、昨年度導入した保護者向けアプリやYouTubeを利用し、積極的に情報の提供を行った。 ・園児募集や未就園児向け活動、教員募集にもオンラインでの情報提供や申込ができるようにし、対外的な情報発信を積極的に行った。
地域、関係 機関との関 わり	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で中止しなくてはならないことが多く以前のようにはできていないが、地域の方々向けに子育てカウンセラーの相談、高原図書館の一般開放を行った。未就園児向けのりんごクラブはコロナ感染防止のため実施方法を工夫し実施した。 ・自治体をはじめとする関係機関とは電話などで緊密に連携をはかった。

4. 総合的な評価と今後取り組むべき課題

- ・今年度はコロナ禍でも安全・安心な教育・保育を行うことを最重要課題として取り組み、感染拡大に際しては、危機管理意識を園全体で共有し、関係機関と連携して適切に対応した。また子どもたちにはコロナ禍においても楽しく過ごしてもらえるように、できるだけ行事も行う方向で検討し、実施内容の変更や分散実施など工夫した。
- ・保護者の皆様に現場を見ていただく機会が減ったので、電話でのコミュニケーションを増やし、行事は感染予防を徹底して参観いただけるよう工夫した。感染拡大対策で参観いただけない場合には動画配信などを行った。今後も保護者の方々の意見を聞き、園の考え方を示し、改善すべきものは改善するように取り組む。
- ・今年度は新たに満3歳児クラスを創設。幼保連携認定こども園として、0～2歳児、満3歳児、3～5歳児で共通認識を持って進められるよう、教育・保育方法を検討する。
- ・教職員の人数が多く、全員での研修や情報共有が困難となっており、今後非常勤職員も含め、意見の吸い上げや教職員間でのコミュニケーションがより進むように工夫し、保育の質の向上に努める。
- ・日々の業務に加え、コロナ対策や行事の変更などで業務量は増加し、非常に忙しい状況が続いており、職員の勤務時間短縮が喫緊の課題となっている。引き続き業務内容や実施方法の見直し、効率化の推進を進め、適正な人員配置を行い、職員が意見を言いやすい環境を整備し、職員が余裕のある保育ができるようにしていきたい。